

## 何事にも目標を持って取り組むことのできる生徒の育成

～人との関わりを通して自己理解や他者理解を深め、成長につながる目標を立てるために～

日置市立土橋中学校

### 1 研究のねらい

生徒の自己肯定感はとて高く、充実した生活を送ることができていると捉える生徒が多い反面、限られた人間関係の中で過ごすことから、模範となるべき他者の姿を見ることがや多様な考えにふれる機会が少なく、自分自身を更に成長させようとする努力や、互いに競い合ったり高め合ったりする態度が十分ではない面が見られる。そこで、キャリア発達において中学校段階は、自己の個性、能力、適性の理解を深め、興味・関心が自己から他者、そして社会認識へと広がる途上にあり、自己と他者や社会との適切な関係を構築していく力を身に付けていく時期であることから、自らの役割や将来の生き方・働き方等について発達に応じてしっかりと考えさせるとともに、目標を立てて計画的に取り組む態度の必要性について体験を通して理解を深めさせ、進路の選択・決定へとつなげていくことが必要であると考えた。また、先を見通して今なすべきことを理解し、その実現に向け自主的・自律的に努力したり、仲間と協働的に課題を解決し合ったりする中で得られる達成感や成就感を味わわせることがとても大切であり、これらの体験を通して得られる真の自信や新たな挑戦へとつながる経験は、本校の生徒にとって必要なことであると考え、研究を進めることにした。

### 2 研究の概要

- (1) これまで取り組んできた教育活動について、ねらいを見直し、個別の目標設定や振り返り活動を工夫すれば、自己理解が深まり、より明確な自己や集団の成長をめざした目標設定につながるのではないかと。
- (2) 様々な他者との交流や他者から評価してもらう機会を設定すれば、他者のよさを学びとったり新たな自分のよさや課題を発見したりすることができ、自己の進むべき方向や伸ばすべき力が明確になるのではないかと。
- (3) 生徒が主体的・協働的に課題を解決していく場を設定すれば、学び方や解決の仕方を身に付けることができ、自信や信頼が生まれ、自分の役割を果たそうとしたり、他者の考えや立場を理解しながら活動したりする態度を育成できるのではないかと。

### 3 研究の内容

- (1) キャリア教育の視点から教育活動の見直し
- (2) 他者から学ぶ場の設定
- (3) 生徒が主体的・協働的に活動できる場の設定

### 4 研究の実際

- (1) キャリア教育の視点から教育活動の見直し

#### ア ねらいや活動内容の見直し

「基礎的・汎用的能力」の育成を目指して、4つの力（「人間関係形成・社会形成能力」、「自己理解・自己管理能力」、「課題対応能力」、「キャリアプランニング能力」）を身に付けさせるために、各教育活動のねらいをキャリア教育の視点から捉え直し、活動の工夫・充実を図ることにした。

#### イ 目標設定と振り返りの工夫

各教育活動のねらいを生徒に明確に示し、個別の目標を設定させた。振り返りの場面では、数値評価だけではなく、できるようになったことや今後取り組むべきことなどを文章記述させるようにすることで「自己理解・自己管理能力」や「人間関係形成・社会形成能力」の育成につながるかと考え、多くの教育活動の中で実践した。

## ウ 体験的活動の工夫

3年間の系統性を持たせた指導計画にすることによって、将来の社会的・職業的自立に向けて、現在の学習と実社会とのつながりを意識し、目的を持って学ぼうとする態度を段階的に育むことができると考えた。また、体験的活動を一過性のもので終わらせるのではなく、事前・事後の学習を充実させ、学習につながりを持たせた。

### (2) 他者から学ぶ場の設定

#### ア 他校との交流

他校において授業や学校生活を体験することで、現在の学校生活に満足することなく、日頃から主体的・協働的に取り組む大切さや多人数の中でコミュニケーションをとるために必要なことを学ぶ機会となるよう、鹿児島大学教育学部附属中学校や鹿児島育英館中学校・高等学校との交流学习を実施した。

#### イ 保護者等の関わり

保護者は、生徒にとって最も身近な生き方のモデルであり、これからの生き方に大きな影響を与える。保護者とそれぞれの教育活動のねらいを共有しながら、職場見学や職場体験の事前、事中、事後に励ましの言葉やアドバイスをもらうなど、積極的に生徒に関わってもらった。

### (3) 生徒が主体的・協働的に活動できる場の設定

#### ア アクティブ・ラーニングの視点を生かした学びの場の設定

「人間関係形成・社会形成能力」は、多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の考えを正確に伝えることができる力である。そのため、実際に話したり聞いたりする言語活動を重視することが大切であることから、授業においても、目標や問題意識を持たせ、話し合い活動やペア・グループ活動によって課題を解決し、振り返りを充実させるようアクティブ・ラーニングの視点を生かした授業改善を図った。

#### イ 生徒会主体の行事運営や地域行事運営への参画

生徒会に積極的に学校行事等の企画・運営に参画させたり、地域の一員として地域と積極的に関わらせたりすることにより、「基礎的・汎用的能力」の育成を図った。



職場体験の様子



交流学习の様子



ふれあい活動の様子

## 5 研究のまとめ

### (1) 成果

ア 自己理解が深まり、目標を持って活動に取り組もうとする態度が育った。

イ 将来や成長につながる目標を設定し、自主的に取り組むことができる生徒が増えた。

ウ 他者理解に努めたり、自分の役割を果たして仲間と協力して行動したりする生徒が増えた。

### (2) 課題

ア 自律的・継続的に勉強や活動に取り組むことが定着していない生徒もおり、忍耐力や努力を続ける姿勢が十分には育っていない。

イ 他者に働きかける力やコミュニケーションスキルが一時的に向上するが、定着には至っていない。

## 6 今後の取組

「清流の小川から大海へ泳ぎ出る生徒をいかに育てるか。」を想いの根底に置き、自分や団体の成長を図る明確な夢や目標を持ち、目の前の困難に正面から向き合い克服していく生徒を育てるため、人との関わりを鍵に、今後も小規模校の特性を生かした研究を続けたい。